

A. 日 時 2016年5月20日 曜日 17時30分～19時30分

B. 場 所 本会会議室

C. 出席者 松本主査、他8名

D. 提出資料 【提出委員名も記入して下さい】

No. 13-01：第12回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）

No. 13-02：見える化 WT

E. 審議事項

1. 議事録確認

資料 13-01 「第12回環境振動性能評価小委員会 議事録（案）」について報告

A) 前回委員会議事録内容の確認

→ 承認された

2. 運営委員会活動報告

A) 運営委員会報告

※ 2016年度大会について

→ 環境振動評価に関するパネルディスカッションは8月25日午後に変更となった

※ 若手研究者奨励

→ 本年より「若手研究者発表賞」に名称変更

3. 議論

A) 資料 13-02 「見える化 WT」に関して報告

※ WT 第一回ミーティング

→ 5月13日に、5名で行った

→ 振動のふるまいを絵・言葉で表現できるか検討を行った

B) 環境振動の見える化に関して議論

※ 見える化した資料をどのような対象に提供するのか

→ 設計者と建築主との合意形成のために用いる

→ 原因不明な加振源を推定する際のヒアリング調査のためにも有用

---

 ※ 資料作成時の留意点

- 地震や風揺れ等の発生頻度の低いものへの説明には有用であると思われるが、常時発生しうる振動（床振動等）に関しては振動自身を擬音語にて表現できてしまう（＝知覚してしまう）時点で居住環境としては問題があるのでは？
- 情報を集積し、より精度（確度）の高い表現を導くことは可能であろう
- 戸建て住宅を対象とした資料の作成も有用と思われる（戸建て系の専門家にも小委員会の委員かつWTメンバーとして参加願う）

## ※ メンバーの増員

- 本小委員会より1名追加
- 前述の通り、戸建て系の専門家にも参加を要請する
- WTの設立の目的等を示した募集のための文言を益田委員が作成の後、戸建てWG等にて募集を行う
- なお、本小委員会では委員の空きが1名あることから、併せて委員会への参加の打診も行う方向で検討する

## C) 振動感覚実験の実験環境の検討

## ※ 北方建築総合研究所について

- 鉛直・水平の複合振動を再生できる実験装置は貴重
- 実験装置の性能等の体験を目的に同研究所での見学会の開催を検討する

## 4. 次回以降の課題

- ※ 「居住性能評価指針」と「設計指針」の位置づけについて、評価指針への提言
- ※ 環境振動に関するホットな話題を随時募集
- ※ 評価WGでの活動内容の報告
- ※ 水平振動と鉛直振動を分けて考えているが？（交通振動に着目すると、水平と鉛直の両研究があるので関連付けることは可能か？）
- ※ 環境振動の見える化
- ※ 北方建築総合研究所見学会

次回の小委員会は、未定です。今後、メール審議にて日程調整を行います。

また、次回小委員会において資料を提出される方は、あらかじめ準備(14部)されるか、もしくは2日前までに本小委員会のオンラインストレージまでアップロードお願いいたします。